

「バスタ新宿から地方を元気にするプロジェクト」について

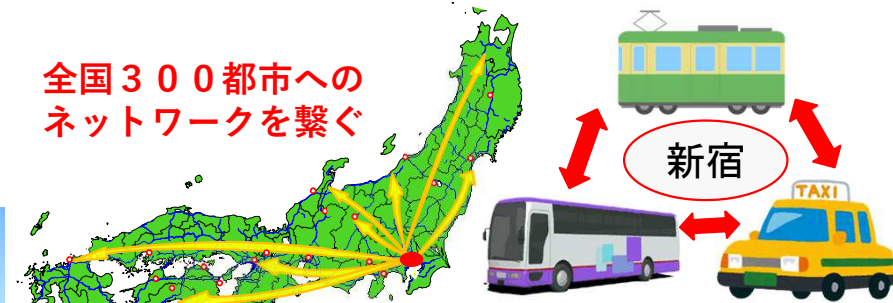
1. プロジェクトの背景と目的

バスタ新宿

- ・ H28年4月：開業
- ・ R4年11月：利用者5000万人達成



全国300都市へのネットワークを繋ぐ



バスタ新宿の開業を契機に、全国では、品川や神戸三宮等バスターミナルの整備が進められている。

しかし、コロナ禍で・・・

バスの利用者減

観光業界打撃

～目的～

1. ばす旅の推進
2. 地方の活性化
3. バスターミナル整備の必要性周知

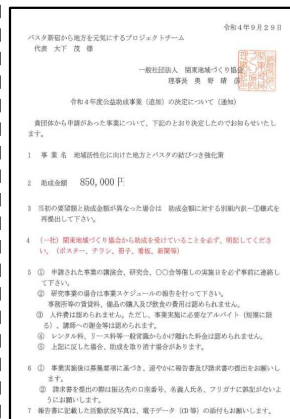
◎プロジェクトチーム構成

- ・ 帝京大学 大下教授 (代表) ・ 大下ゼミ
- ・ 東京理科大学 柳沼准教授 (副代表) ・ 柳沼研究室
- ・ 松本市 観光プロモーション課
- ・ 東京国道事務所

官学連携

2. 令和4年度プロジェクトの実施内容

①公益助成金の採択



(一財)関東地域づくり協会の公益助成事業を活用!!

②バスターミナルカードの作成・配布



バスターミナルカード

学生考案!!
新宿-松本間の高速バス利用者に配布。
(約2000枚発行!)

③デジタルスタンプラリーの実施



デジタルスタンプラリーポスター

・バスタ新宿と、松本市内魅力スポット計13カ所をチェックポイントとし、地域活性化へ

・10代~60代まで幅広い世代が参加

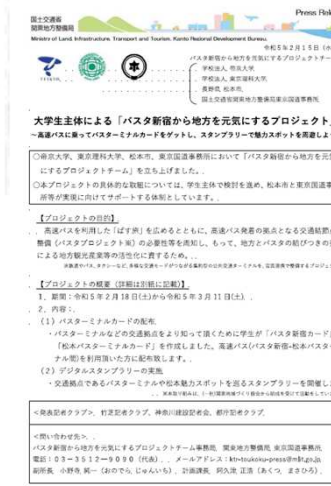


マップ

3. 令和4年度プロジェクトの成果と課題

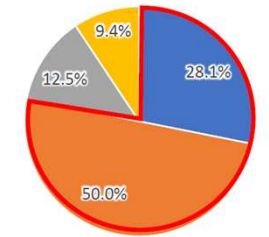
【成果】

- 学生と企画段階から議論を進め、バス会社等の民間企業とも連携で、**産学官連携**の強みを生かしてプロジェクトを進めることができた。
- 両大学、松本市と共同で記者発表を実施し、いくつかの新聞社に取り上げていただく等、広く告知することができた。

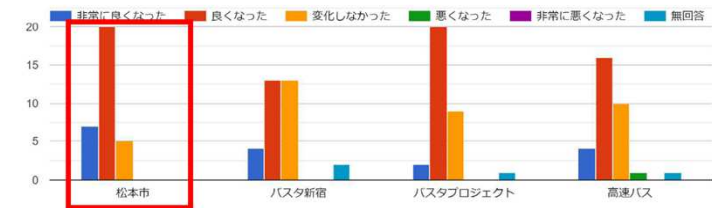


2023年2月15日 記者発表

プロジェクトに関する新聞記事
(左：2023年2月22日 信濃毎日新聞)
(右：2023年2月25日 中日新聞)



プロジェクトの満足度



企画実施前後の印象の変化

【課題】

- 新聞やWEBメディアでは広く告知できたが、バスタ新宿利用者やSNS等へ広報が上手くできなかった。
- 役割分担が整理できておらず、スケジュールを上手く管理することができなかった。

4. 今後の展開

- 令和4年度を初年度とし、3か年で本プロジェクトを推進していく予定。今後はバスタ新宿-松本バスターミナル間に限らず、他地域への拡大を検討している。
- 引き続きバスターミナル整備の必要性等を周知することを目的として、「バスタカード第二弾(案)」を作成し、高速バス利用者に配布を検討中。
- バスターミナル整備やインフラツーリズム等の道路施策について、プッシュ型で継続的な情報提供を行い、道路施策PRを図るとともに、バスタ利用者への周知活動を昨年度以上に力を入れていく予定。



全国に展開されるバスターミナル整備 (本プロジェクト紹介冊子より抜粋)